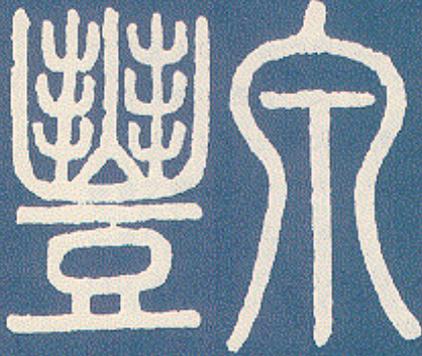


ほうせん



THE HIROSAKI UNIVERSITY LIBRARY BULLETIN

弘前大学附属図書館報 ISSN 0919-8563

No. 25 2005. 3

## 目次

|                      |    |
|----------------------|----|
| 読書の力について……           | 1  |
| 弘前大学を卒業しての満足とは？……    | 3  |
| 私の読書……               | 4  |
| 「能動的学習」と大学図書館の役割……   | 5  |
| 近い図書館……              | 7  |
| 図書館資料の活用……           | 8  |
| 図書館・ハッスル……           | 9  |
| 私の情報検索—ネット法と”パラパラ”法… | 11 |
| 本学教員等著作寄贈図書・資料……     | 12 |
| 図書館講演会・会議報告……        | 13 |
| 図書館統計……              | 14 |
| 図書館日誌……              | 17 |
| ガイダンスのお知らせ……         | 18 |

## 読書の力について

附属図書館長 中澤 勝三



「読書力」という言葉があります。何でも、「力」を付ければいいというものではないと思いますが、たしかに読書によって鍛えられた知力には魅力があります。月に5000ページの本を読まない者は学生とみなさないとしたのは、亡くなられた岸本重陳氏(経済学者)でした。月に5000ページを読む学生は素晴らしい、ということではなくて、学生としての最低の資格、ノルマだと言われているのです。しかも、そうおっしゃる以上、ご自分にもそれを課されていたようです。

何でも読めばいいというものでもないでしょう。しかし、多様化された現代のメディア媒体の世界においても、読書は不可欠だと私は考えます。岸本先生も読書の質を問題にされていました。ところで、読書をして、それでどうなるのでしょうか。功利的に何かの役に立てる、ということもあるでしょうが、ここでいう読書はそれとは違うのです。読書で知り得たことは、必ずしも事実を知ったことにはなりません。ノン・フィクションでも、評伝でも、事実そのものではありません。

作者の目を通した加工された内容です。私は文科系の人間ですので、主に人間についての記録や作品を読みますが、それを通して知りうるのは、疑似体験ではないでしょうか。世の中にこんな人がいたのだということを知る感動です。イサム・ノグチの人生、シャクルトンの南極探検、北里柴三郎の生涯、それらの作品を読むことは、彼ら、彼女らの人生の一端をわれわれに覗かせてくれるものです。必ずしも事実そのものではありません。批判的に読むことも必要でしょう。

その先に、次のステップがあります。自ら何かの探求に向かうことです。自分が興味を持ったなにがしかについて、立ち向かうことです。小なりとはいえ、皆さんの多くが書こうとされる卒業論文(卒業研究とも言います)の類がまずそれに当たると思うのです。植物に興味を持って、遺伝子に関心を抱いても、いま申し上げたことは、それほど変わらないと思うのです。ただ、それを意識的にやるかどうかということなのです。

私は、研究については、自分の好きなことだけをやって来ました。16世紀のヨーロッパの都市を中心とした貿易関係を調べて、ベルギーの古文書館に通いました。「なんでこんなことをやるのか」と不思議がられました。関税帳簿を筆写していたのです。目的は貿易の実態を知ることです。誰も使ったことのない史料を「読む」ことに底知れぬ快感を味わいました。本を読むことから、あるいは本を読むことに加えてといった方が適切かもしれませんが、史料を読むことになったのです。

「好きなことこそ」といわれます。興味を持ったことであれば、とことん突き詰めることができるということです。興味を持つ、そのことの探求を、人知れず行う場が読書なのではないでしょうか。高校生時代、図書室に入り浸って、文学全集を読みつぶす意欲に駆られたことがあります。何を職業とすべきか、一番悩んだのは、高校生のときです。そして、フランス文学か西洋史をやろうと考えました。いま私がやっていることは西洋経済史です。文学部史学科を出なくても歴史を研究することはできるのです。大学に入って1年目に受けた山田舜先生の日本経済史の講義に圧倒されました。数年前、福島大学に大塚久雄文庫が開設されたとき、30数年ぶりにお会いしました。先生は中澤を覚えていました。山田ゼミでの薫陶がなければ、と思うと、感慨深いものがあります。

何が自分にとって大事なことなのか、興味あることなのか、それを多少とも余裕を持って考えることができるのが大学生の特権です。金はなくても時間があるのです。弘前大学附属図書館は、学生用図書の充実を図っています。選定委員の方々が、学生にとって適切、大事な本なのか選定した本を揃えています。開架の書棚の前に立って、知の集積を手にとって下さい。そこからあなたの未来が開かれてきます。こんな本が欲しい、自分で買うには、と思われたら、図書館に希望を出してみませんか。みんなで弘前大学の図書館を充実していこうではありませんか。

(なかざわ かつみ)



## 弘前大学を卒業しての満足とは？

—「智」の復権としての大学教育—

弘前大学附属図書館副館長 雨森 道紘

法人化を境に弘前大学は、模様替えが急ピッチである。校内の散策が楽しくなるような遊歩道も一部に出来ている。昨年の「学園だより」には、校内名所旧跡のマップが付録として付いており、外来者を伴った散策の楽しみも出来たが、惜しむらくは夏の強烈な太陽を遮断する気の利いた緑とベンチがあれば、とも思うのだが…。それでも、その昔の校内を知る者にとっては、まさに隔世の感がある。このように学習環境の外回りは完成しつつあると言える。さてしかし、大学は学生に華やかな場所を提供するのがその目的ではないから、今後さらに学習環境を整えるには、ここで「学習環境とはなにか」をもう一度問い直して見る必要がある。この号に執筆をお願いした21世紀教育センターの土持ゲーリー一法一教授の大学教育観を借りると、大学の学習環境とは、『学生が能動的に学習できる環境を備える』ということになる。氏の考えによると、まさに日本の大学がこれまで見落としてきた教育手法が、見事に指摘されているように思う。この号に載っている氏の図書館の存在意義を学生・教職員・大学関係者全ての人に熟読して貰いたい。氏の教育手法での最重要教育施設は図書館である。そこに求められることは、知の財産としての図書ではあるが、しかしそれよりも何よりもその場所を利用して、「能動的な学生を育成しようとする教員」であり、「学生との相談にあたる専門家(司書)」であり、「それに臨む学生」である。この号には披瀝されていないが、氏から直接に伺ったエピソードは実に示唆的である。氏がコロンビア大学の教授の研究室を訪ね「先生の研究をやりたい」と尋ねた時に、『僕の研究

は僕がするからいいんだ。君は君の研究を探してしなければ意味が無い』といわれたそうである。この捉え方は学問分野により異なると思うが、しかしこの考え方が米国の教育の基本にあり、ここに能動的学習の基礎があり、それが能動的な研究へと発展する。日本にノーベル賞が少ないのも、宣べなるとかなと思わせそうである。



米国での能動的学習が如何に行われているかといえば、教授は学生を図書館に連れて行き、目的の参考図書の探索の仕方を教える。学生は、探索の手法と司書係とのやり取りによって自分の目指すものの探索を行い、学習を進める。学生のシラバスには、指定図書xpp～yypとページ数を指示し、それは図書館には貸し出し不許可として、常に5冊ほどは、用意されている。実際にコロンビア大学学生の教官から示された次回の講義のシラバスを見せ貰うと、授業内容のためのテキスト(数冊あり)のページ(数ページ)が明記されている。(勿論それらは学生が使用可能のように図書館に所蔵されている。)  
「能動的学習」手法とは、個別の分野ごとに、あるいは短期の個別講習などによってなされるものとは異なり、時間をかけて体得されるべき、より基本的なものであり、大学初年度から日々の学習によって培われ身に付くものを指している。この表題に記した「満足」とは、能動的に学習ができるhow to を身に着けたことを意味し、それこそが智であり、大学でそれを体得させることこそが、その後の人生にも有効な本当

の「満足」を与える事であると考えるのである。

しかし、その能動的学習を側面から支える学術雑誌は、たったこの2年間に2/3に、タイトル数にして実に300タイトルが姿を消しているのである。「昨今の研究費の減少の中では、勢い雑誌を削るしかない」という実情がそのまま反映されている。欧米では、チャペルと図書館に象徴

される大学の智が、日本では法人化の陰で危機的状况に陥っており、これを打開し、質的にも且つ量的にも智の復権を果たすためには、図書館は、能動的学習の役割を担う中心的拠点として「これからの大学像」の中に位置付けられることが必要である。

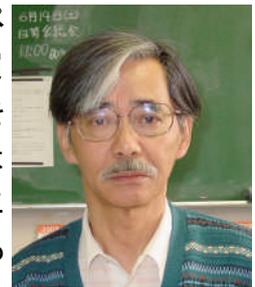
(あめのもり・みちひろ)

## 私の読書

医学部分館長 正村 和彦

大学はさまざまな施設を持っている。学生はこれらのかなりの部分を使用することができる。多くの場合無料で使用できる。図書館はこれらのうちで最も大きい施設であろう。明るい照明がついている。冬は暖房がきいている。隣の席に若い女性が座れば、いい臭いもしてくる。いい場所だ。うんと利用することを勧めます。私が学生だった時はどうかというと、私はほとんど図書館を利用しなかった。本はできるだけ買って、家で読んだ。多くの本は古本屋で買った。図書館では本は整然と、論理的に書架に配列している。古本屋ではこんなに整然と本は並べられていないし、横積みされているものもある。しかるに、不思議なことに、この雑然の中から私にとって興味深い本が「ハロー」と出現した。夏は風通しのよい場所を見つけて寝転がって、冬はふとんの中で本を読んだ。本があきたらそのまま寝てしまった。気になった箇所には鉛筆(2B)で太い線を引き、余白に思い付いたことをメモした。

ブックマークの代わりにページを折った。私は本を買うと、買った日付と場所を本の扉の裏に書く。時にはメモにも日付を加える。これらの本のうち、愛着があるものを今でも持っている。



これらを開くと、筆蹟が変わらないのに驚く。メモには、『理解困難!』、『非論理的』、『バカたれ』などと書いてある。『感心した』とか『感動的』のメモが無い。若いころは本を読んでも著者に対して常に挑戦的に向っていたのがわかる。最近は大いぶ変わったかということ、ほとんど変化なしである。最近はもっとエスカレートして、本の扉の裏に『すべてくだらない』などと書いてある。私は解剖学者である。かの有名な解剖学者、養老猛司、の多くの本の扉の裏にはこれが書いてある。

(しょうむら・かずひこ)

## 「能動的学習」と大学図書館の役割

21世紀教育センター高等教育研究開発室

土 持 法 一

新入生諸君は、「図書館」と聞いたら何を考えますか。図書館は、ドイツ語の *Bibliothek* で、その語源には、「聖書」と「本」という意味があります。英語でも、“the Book”あるいは“the good Book”と言った場合、聖書のことを指します。このように、図書館は、聖書と深い繋がりがあり、ヨーロッパやアメリカの大学では、広大な芝生のキャンパスの中央に、教会と図書館がそびえるというのが、昔ながらの風景でした。また、図書館は、英語で *Library* ですが、その語源は、「本」や「自由」を意味するラテン語の “*liber*” からきています。ニューヨークの有名な「自由の女神」の *Liberty* や、教養教育を主とする、リベラルアーツ・カレッジの “*Liberal*” も、「自由」を意味するラテン語の “*liber*” から生まれたものです。シカゴ大学の伝統的なリベラルアーツ・カレッジのカリキュラムにおいては、古典を読むことが重視されました。古典を読むことで、解放（リベレイト）された「自由」な人間となり、無限の可能性が広がったからです。日本でも、大学は、最高学府であって、図書館は、それを支える知の拠点なのです。

諸君が、本学で、最初に学ぶものに、「21世紀教育」という教養教育があります。その歴史は、戦後の新制大学の「一般教育」までさかのぼり、共通教育を経て、今日に至っています。全国の大学で、教養教育を「21世紀教育」と名づけているところは、弘前大学だけです。弘前大学には、伝統的に、旧制弘前高等学校における「高等普通教育」を重視する、教養教育の風土が根強く、文豪・太宰治などを育てた、恵まれた

教育環境にあります。図書館には、太宰文庫があります。諸君は、この伝統のなかで、新しい「21世紀教育」の教養教育を学ぶことになり



ます。この新旧からなるダイナミクスが、リベラルアーツ・カレッジの源泉となっています。リベラルアーツは、単に、教養を身につけるだけでなく、課題を求めて、主体的に問題意識をもち、さらに問題提起にとどまらず、問題解決に積極的に取り組むところにあり、本学の「世界に発信し、地域と共に創造する」の目標を達成する、エネルギー源であると考えています。

大学審議会は、「21世紀の大学像と今後の改革方策について—競争的環境の中で個性が輝く大学—」を答申し、教育内容のあり方について、「課題探求能力の育成」を掲げています。まさに、21世紀の高等教育政策の核心が、ここにあります。しかし、大学審議会の答申には、重大な欠落もあります。なぜなら、図書館の利用法について、言及していないからです。たしかに、教育内容のあり方、教養教育の重視、専門教育の見直し、大学と高等学校との接続などについて答申しています。しかし、課題探求能力の育成とは、問題意識をもって、問題解決に主体的に取り組むことであって、図書館の役割は不可欠です。図書館のはたらきを抜きに、「課題探求能力の育成」など、机上の空論に過ぎません。

「課題探求能力の育成」とは何か、漠然としています。実際の授業とどうかかわるのか、これも

はっきりしません。「課題探求能力の育成」のためには、まず、「能動的学習」を実践することから、はじめなければなりません。高校までの授業のように、受け身ではなく、自主的に取り組むことを学ばなければなりません。諸君は「能動的学習」という言葉を耳にしたことがありますか。これは、英語では、アクティブ・ラーニングといわれるもので、「学生に知的な刺激を与え、自主性を引き出し、自学自習の態度・習慣を身につけさせる」ことです。東京大学元総長有馬朗人氏は、大学の演習は、高校までに学んだことと違う方法なので、新生が最も戸惑うものであるとしながらも、演習、すなわち、ゼミは、学生たちの自主的な学習によってしか支えられないもので、「大学教育の要である。」と話しています。

諸君が、最初に履修するものに、「基礎ゼミナール」があります。「基礎ゼミナール」の達成目標には、1)自主的な学習態度を獲得すること、2)課題発見能力を高めること、3)資料(情報)の検索・収集・整理に関する基本的な技術を習得すること、4)基本的な文章構成力・発表能力・討論能力などを獲得すること、などが掲げられています。これらの、どれをとっても、図書館を抜きには考えられません。今後も、図書館の役割は、益々、重要になります。たとえば、学生の読解力を高めるために、教員から推薦された図書リストをもとに、読書力に力を入れることも必要かと思えます。周知のように、2004年12月、経済協力開発機構(OECD)の国際学習到達度調査結果では、「読解力」の低下が注目され、話題になりました。しかし、読書の量を増やせば、事足りるというものではありません。どう読むか、いかに読むかという、効果的かつ批判的読解力が重要なのです。

欧米では、学生が疑問を持つことから授業がはじまります。コロンビア大学の総長は、アメリカでは「定説」を覆すことから授業をはじめると話

しています。大学の授業では、「なぜ」の疑問をもつことが重要で、そこから、いろいろな考え方を引き出すように導いています。英語の”Education”を、誰かが、「教育」と訳したようですが、誤訳です。英語の語源からも、「教え育てる」のではなく、むしろ、個性を引き出す、強いて言えば、「啓育」に近いものだと思います。結論よりも、論理の展開や思考過程が重視される所ですが、ここに 있습니다。イギリスの小・中学校には、「プロジェクト」教育というものがあり、自らテーマを選び、それについて、図書館、美術館、博物館などで調べ、実地調査をして、まとめるというものです。

アメリカの大学の授業では、教員が、図書館を利用するように、学生に課題を与えます。これは、大学における単位制と密接な関係があります。なぜなら、大学では、1時間の授業に対して、2時間の予習・復習を前提として、単位制が成り立っているからです。授業だけでは、単位を取得したことにはなりません。授業のシラバスを消化するには、図書館にリザーブされた指定図書を読むことが不可欠です。指定図書にリストされたものは、大抵の場合、午後10時まで貸し出しが禁止され、それ以降、借り出したとしても、翌朝9時まで返却しなければならないことになっています。その結果、学生は、予習やレポートのために、図書館に「缶詰」にならざるを得ないのです。

コロンビア大学の指導教授であった、中国系アメリカ人の恩師は、図書館の利用法を会得することこそが、将来の良き研究者になる「秘訣」であると教えてくれたことを思い出します。21世紀の生涯学習時代を生きるうえで、図書館は、大学4年間だけでなく、将来の情報源ともなるもので、在学中から、利用方法などに精通しておきたいものです。

(つちもち・ほういち)

# 先輩から新入生のみなさんへ

## 近い図書館

人文学部情報マネジメント課程 4年 渡部 輝

私がこの図書館から学んだことを二つ挙げたいと思います。少しだけお時間をください。

### 「情報を得る方法」

情報を得る方法とは、必要なことを素早く得る力です。テスト勉強やレポート・卒業論文執筆の際、参考にしたい文献を入手しなければなりません。その文献が図書館内にあるのか、どこにあるのかを検索する。この図書館になれば、他大学にはあるのかを他検索システムで調べる。もしあれば取り寄せてもらえる。または希望を出せば図書館が文献の購入を検討してくれる。・・・このような過程を知り、実践することで、入手したい文献のほとんどがこの図書館で得られるということを感じてください。

館内をよく見回してみてください。検索機の使い方や館内の案内など、職員の方々による様々な配慮がなされています。そのため、ほとんどの機能を自身で利用できます。もちろん困ったことがあれば、カウンターへどうぞ。私がカウンター業務していて感じたのは、すぐそばに書いてあるような問い合わせが少なくなかったことです。自分自身で身につけること、大切です。

### 「寄り道」の大切さについて

「図書館は大きな本棚である」という人がいます。図書館とは本来、勉強をするための空間で

はないのかもしれませんが、なんとなく行き詰ったときは、普段触れることのない分野の本や雑誌を読みに来てはいかがでしょうか。読む気もおきな

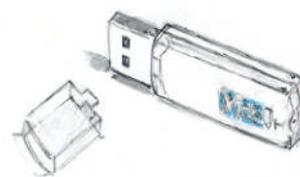


いなら、図書館の窓から見える緑や黄色を眺めたり顔を伏してもいいでしょう。図書館は単に風景であってもいいと思います。このようなちょっとした「寄り道」が思わぬ出会いを生むかもしれません。私自身、閑を持て余していたある日、書庫の隅にあった本をたまたま手に取ったことが、後の卒業論文を執筆するきっかけになりました。

また図書館には古い本・雑誌が膨大にあります。数十年前に発行されたそれらの装丁や内容、その中の広告などから当時の空気を感じてみてはいかがでしょうか。含蓄、笑い、その他云々。得られるものは見る人、時機次第です。

以前、他大学に通う友人をこの図書館に案内したところ、「利用者との距離が近い図書館」と口にしていたのを思い出します。この図書館は難しい場所ではありません。大学は、自分なりの「方法」や「持ち場」を確認する場所だと思います。弘前大学附属図書館がその手助けになるといいですね。

(わたべ・あきら)



## 図書館資料の活用

教育学部小学校教育専攻3年 横山 美保

図書館を利用する際に私が勧めたいことは、様々な資料の読み比べをするということです。自宅の本棚とは異なり、図書館には膨大な資料がそろっています。学生では手の届かない高価な、権威のある資料もそろっています。研究をする場合に、これを活用しない手はありません。

では、なぜ資料の読み比べを行わねばならないのでしょうか。私の専門分野でいいますと、ある作品を研究する場合、文献の出版社、著者、編者が異なれば、考え方が異なってくるのは必然です。それでいて、一つの文献に頼ってしまうと、はじめからその一つの考え方によって方向付けられてしまいます。また、いくつかの資料を比較・検討することにより、自分自身の考え方も幅を持ち、確かなものとなっていきます。

研究を進めていくうちに、新たな疑問も生じてきます。研究対象は、時代によって理解も異なってくるからです。例えば、なぜこの時代に、このような理解がなされたのか。という疑問が生じた場合、その時代における大衆文化等にも視野を広げて調べてみる必要があるかもしれません。また、ことば遣い一つをとってみても、新たに考え直さなければならぬ点多々あります。例えば、「夜」という字が「よる」と呼ばれたり、「よ」と呼ばれたりすることについても、国語学の分野

においては、双方の意味・用法は異なります。また、漢詩における「月」という漢字一字についても、比較してみると詩によってその持つ意味や、詩における意義は一様ではありません。どのような過程を経てその表現が確立したのか、その文学性は、等々、疑問はいくらでも噴出します。

勉強に終わりはないといいますが、まさにその通りだと思います。調べれば調べるほど、知れば知るほど、新たな疑問が生じてくるのです。そこに、作品研究の、あるいは資料読み比べの楽しみもあるのではないのでしょうか。生じた疑問がどんなに小さなものであっても研究を進めるにつれて大きな疑問へとふくらんでいきます。「何かを調べて知って、それで終わる」ということでは、調べる行為そのものが目的となり、「研究」まではなかなか発展しません。図書館の書籍を利用して一度何かを納得いくまで調べてみようではありませんか。そのことによって、知ることと調べることの面白さを確実に味わうことができるでしょう。



(よこやま・みほ)



## 図書館・ハッスル

医学部医学科 4年 大澤 威一郎

ある日曜日、極度の眠気をこらえながら僕は医学部図書館に向かっていった。明日はいよいよ最難関の薬理学の試験だから、どうしても図書館へ行かなくては。日曜日でも図書館が開いているなんて、なんともありがたい。

なかに入ると、心地のよい、何か、森林のような匂いがする。次の瞬間、僕は覚醒した。さっきまでの眠気がうそのようだ。なぜかここにいるだけで、どんどん元気が湧いてくる。

まるでリポビタンDの爽快感じゃないか。脳ミンが冴えてしょうがない。「げんきがあればなんでもできる、図書館があれば勉強できる」

新聞が目に入った。図書館の粋な計らいで、全国紙と地方紙の二種類が置いてある。「朝日新聞」「読売新聞」「東奥日報」「陸奥新報」の四誌だ。これがあれば巷の情報がなんでも手に入る。しかも英文の雑誌もそろっている。今度は「Nature」や「Science」を読んで、すこし賢くなってやるか。おやおや、こうしてはいられない。薬理学の本を探さなくては。

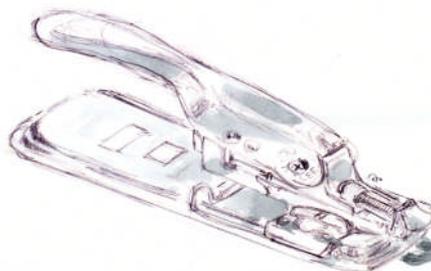
階段をあがり、二階の図書閲覧室へ着くと、薬理学の本棚へ直行した。本棚を探すと、あった。薬理のテストを見越して注文していた本、「カッツングコア」が入荷しているよ！この本があれ

ば、合格まちがいないといわれるほどの、いわば薬理学のバイブルだ。図書館の職員に感謝の気持ちをかめ、手に取る。ピカピカの本を手にして初めてわかった。あの心地いい匂いは、紙の匂いだったんだ。

隣の扉をくぐると、エアコンのおかげで学習に最適な室温に保たれた自修室だ。勉強意欲がますます湧いてくる。椅子に座ると、さっそく本を拵げた。集中できる環境だから、1時間で読み終えてしまった。この波に乗り、過去問にも取り掛かる。走る、走る、鉛筆が走る！これは未体験のスピードだ！ものの30分で解き終わると、颯爽と図書館を後にしたのであった。

翌日の試験もやる気は衰えることなく、快調に問題をこなしていく。勝利を確信し、答案を提出した。後日、合格発表があり、思ったとおり僕の名前はそこにあつた。まさに、図書館のおかげで試験を乗り切り、進級への切符を手にした瞬間だった。これで来年度もハッスル！ハッスル！

(おおさわ・いいちろう)



## 私の情報検索ーネット法と”パラパラ”法

大学院農学生命科学研究科 修士2年 畠山 聡

近年図書の電子化・データベース化により、文献検索・学会誌の閲覧とも非常に便利になってきた。特に新しく文献収集を始める時には、インターネット上の検索ソフトにキーワードを入力すればどんどん情報が出てくるので、非常にありがたい。文献検索の他、図書館のホームページから、検索論文の掲載雑誌・図書が弘前大学に所蔵されているかどうか知ることができる。もし所蔵されていなかったとしても、文献複写依頼を出すことによって、他大学から取り寄せることができ、私もこれまで古い内外の論文をはじめ様々な文献を他大学から取り寄せてもらい大変役立った。資料を受け取るたびにこのようなサービスに携わっておられる多くの方々のご苦勞に感謝している。また最近、論文は雑誌として印刷される前にホームページ上でPDFとして公開されていることもあり、図書館に足を運ばずに論文が手に入ることも有難い。

検索ソフトを利用した文献収集に加え、もう一つ大変有効な情報探索法に”パラパラ検索法”がある。これは、折りあるごとに雑誌・図書を手にとりパラパラと頁をめくりながら目を通し、流し

読みをすることである。一見非効率的な行為に見えるが、思った以上に興味深い論文に出会う確率が高い。特に検索ソフトにひっかかってこない論文に



出会った時は喜びも大きい。雑誌のパラパラ検索は、特に図書館の書庫で行うのが効果的である。総合大学である弘前大学の書庫には多くの分野の膨大な資料があり、自分の専門分野の知識だけではなく、他の分野の情報を知るきっかけにもなって楽しい。

図書の電子化はさらに発展していき、必要な文献のほとんどすべてを自分の机の上で収集できるようになるのかもしれない。その一方で、キーワードで入力されなかった文献との偶然な出会いはだんだん減る可能性がある。そんな時こそ、パラパラと雑誌・図書を検索することが生きてくるのではないかと思う。

(はたけやま さとし)



# 本学教員等著作寄贈図書・資料

(平成15年3月～17年1月受贈分)

| 学部名        | 寄贈者名                          | 資料名                                                                                                                                                                                            | 発行所                            | 発行年     | 冊数 | 所蔵先             |
|------------|-------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|---------|----|-----------------|
| (人文学部)     | 長谷川 成一                        | 弘前藩                                                                                                                                                                                            | 吉川弘文館                          | 2004.3  | 1  | 本館              |
| "          | 木村 純二                         | 差異のエチカ                                                                                                                                                                                         | ナカニシヤ出版                        | 2004.11 | 1  | 本館              |
| "          | 植木 久行                         | 杜牧詩選                                                                                                                                                                                           | 岩波書店                           | 2004.11 | 1  | 本館              |
| (教育学部)     | 今田 匡彦                         | サウンド・エデュケーション                                                                                                                                                                                  | 春秋社                            | 1992.4  | 1  | 本館              |
| "          | "                             | Exteriority and deconstruction : against counterfeit nineteenth century European ideas on music education                                                                                      | University of British Columbia | 1999    | 1  | 本館              |
| "          | Westerhoven, Jacques Nicolaas | De opwindvogelkronieken                                                                                                                                                                        | Uitgeverij Atlas               | c2003   | 1  | 本館              |
| "          | 蝦名 敦子                         | 基礎造形教育におけるデッサンの目的と意義：絵画作品の幾何学的実証を通して                                                                                                                                                           | 多賀出版                           | 2004.2  | 1  | 本館              |
| "          | 北原 かな子                        | 津軽の歴史と文化を知る                                                                                                                                                                                    | 岩田書院                           | 2004.6  | 1  | 本館              |
| "          | "                             | 洋学受容と地方の近代：津軽東奥義塾を中心に                                                                                                                                                                          | 岩田書院                           | 2002.2  | 1  | 本館              |
| (理工学部)     | 吉岡 良雄                         | 待ち行列と確立分布：情報システム解析への応用                                                                                                                                                                         | 森北出版                           | 2004.2  | 1  | 本館              |
| (医学部・附属病院) | 松木 明知                         | 序跋集                                                                                                                                                                                            | 松木明知                           | 2004.1  | 2  | 本館1・分館1         |
| "          | 水島 豊                          | 男と女の腸内ミステリー：天然アップルペクチン                                                                                                                                                                         | ケイワイブランニング                     | 2003.1  | 4  | 本館1・分館1<br>分室2  |
| "          | "                             | 健康長寿のための漢方治療Q&A101                                                                                                                                                                             | 企画集団ぶりずむ                       | 2004.9  | 2  | 分館2             |
| "          | 三田 禮造<br>佐藤 敬                 | International collaboration in community health : proceedings of the 7th meeting of the Hirosaki International Forum of Medical Science held in Hirosaki, Japan between 28 and 29 October 2003 | Elsevier                       | 2004    | 6  | 本館2・分館2<br>・分室2 |
| "          | 八木橋 操六                        | 臨床医のための糖尿病病理                                                                                                                                                                                   | 診断と治療社                         | 2004.2  | 1  | 分館              |
| "          | 対馬 栄輝                         | パソコンによる医学データ解析：SPSSを用いたデータ解析の基礎                                                                                                                                                                | 弘前大学生協同組合                      | 2004.10 | 2  | 分室2             |
| "          | 中村 光男                         | 糖尿病患者のためのインスリン療法の実際                                                                                                                                                                            | シュプリンガー・フェアラーク<br>東京           | 2004.7  | 1  | 分館              |
| "          | 近藤 和泉                         | PEDI：リハビリテーションのための子どもの能力低下評価                                                                                                                                                                   | 医歯薬出版                          | 2003.3  | 2  | 分館2             |
| (名誉教授)     | 小笠原 茂介                        | 夜明けまえのスタートライン                                                                                                                                                                                  | 思潮社                            | 2003.5  | 1  | 本館              |
| "          | 岩淵 隆                          | 左右10指による二進法表現：勘定可能範囲1～1023                                                                                                                                                                     | ライフリサーチプレス                     | 2003.8  | 1  | 本館              |
| "          | 渡邊 一夫                         | ムジツイーレン＝Musizieren：音楽への道                                                                                                                                                                       | 津軽書房                           | 2004.2  | 1  | 本館              |
| "          | 中屋敷 宏                         | アジアの復権：成長の文明か共生の文明か                                                                                                                                                                            | 農山漁村文化協会                       | 2004.4  | 1  | 本館              |
| "          | 松木 明知                         | 雪中行軍山口少佐の最後                                                                                                                                                                                    | 松木明知                           | 2004.10 | 1  | 本館              |
| "          | 吉田 豊                          | 医者がみた遠藤周作                                                                                                                                                                                      | プレジデント社                        | 2003.11 | 1  | 本館              |

ご惠贈ありがとうございました。附属図書館2階の「本学教官著作物」書架で展示紹介をした後、図書館の蔵書等に加え広く利用させていただきます。今後とも図書館資料の充実を図るため教官の皆様のご協力をお願いいたします。

# 図書館講演会・会議報告

## 青森県高等教育機関図書館協議会第10回総会

青森県内に所在する高等教育研究機関附属図書館14機関が加盟する図書館協議会総会が、平成16年7月15日に弘前大学大学会館を会場とし、弘前大学が当番館で開催されました。

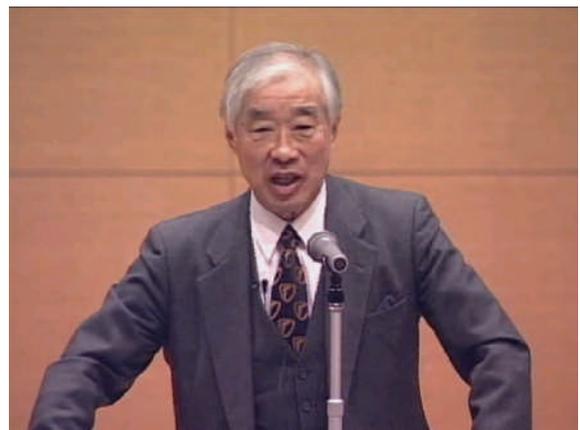
図書館間相互の連携・協力を推進するための課題や図書館の利用を活発にする奨励策、学生用図書を選定方法などについて活発な意見交換、討議がなされた。関連して、研修会の開催、相互協力便覧の作成等連携事業の推進などが確認されたました。



(開会の挨拶をする雨森副館長)

## 弘前大学附属図書館第一回学術講演会

附属図書館では、平成16年10月30日(土)地域社会への貢献を期するため、弘前大学総合文化祭の一環として、学術講演会を開催しました。当日は、郷土出身の作家である太宰治研究の第一人者、岐阜女子大学名誉教授相馬正一氏を迎え、「太宰治の青春—最近発見の旧制弘前高校での太宰の作品を中心に—」と題し講演が行われ、会場となった弘前大学創立50周年記念会館には、青森県内外からの一般市民を中心に110名の方が来場し、太宰治の青春と彼の文学についての講演を熱心に受講されました。附属図書館では、より一層地域社会との連携を図るため、今後も一般市民に対し魅力ある講演会を企画し、公開していくこととしています。

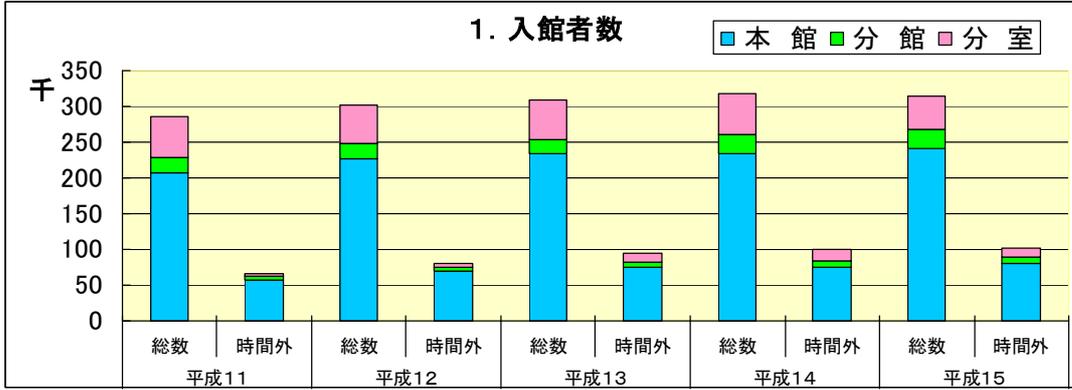


(相馬正一岐阜女子大学名誉教授)

(情報管理課)

# 図書館統計

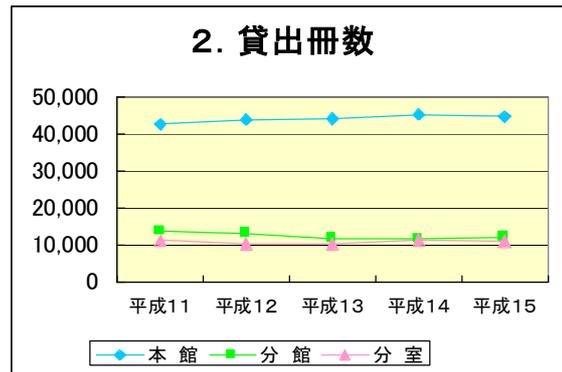
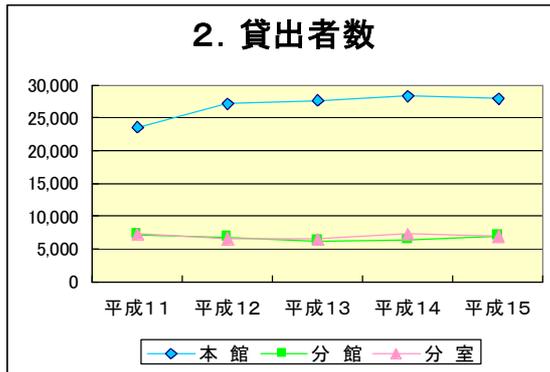
## 1. 入館者数



|    | 平成11    |        | 平成12    |        | 平成13    |        | 平成14    |        | 平成15    |        |
|----|---------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|
|    | 総数      | 時間外    |
| 本館 | 207,529 | 57,440 | 227,087 | 70,124 | 233,623 | 75,386 | 234,095 | 76,651 | 241,349 | 81,409 |
| 分館 | 21,918  | 5,180  | 21,014  | 6,405  | 21,154  | 6,803  | 26,281  | 8,355  | 27,510  | 8,743  |
| 分室 | 55,876  | 4,616  | 53,458  | 4,992  | 54,367  | 13,984 | 58,299  | 15,027 | 46,654  | 12,498 |

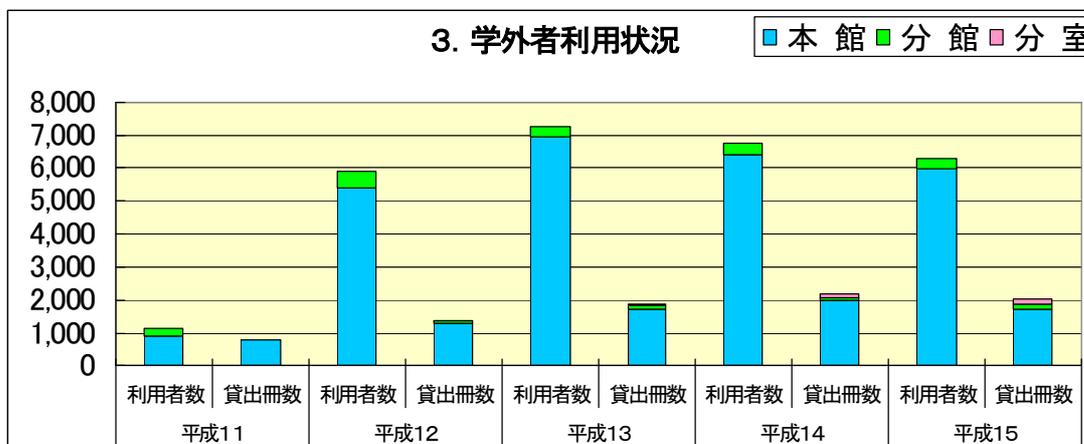
\* 時間外は土・日を含む

## 2. 貸出者数・貸出冊数



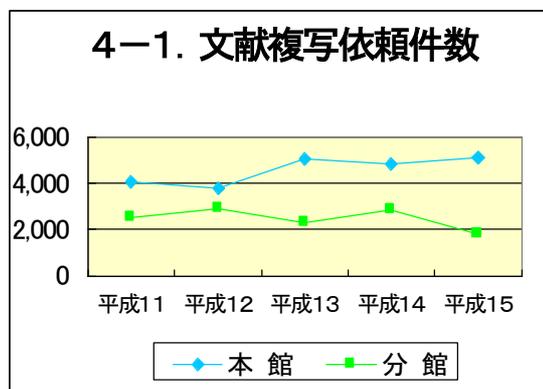
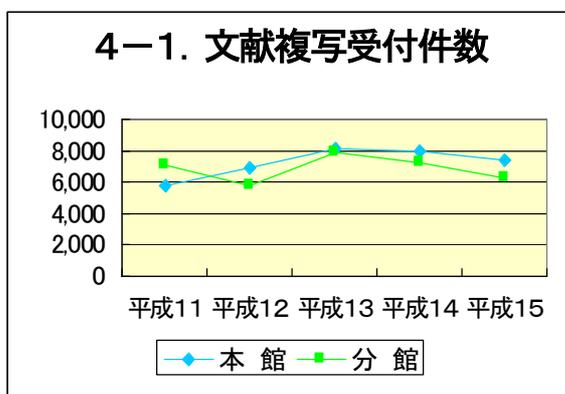
|    | 貸出者数   |        |        |        |        | 貸出冊数   |        |        |        |        |
|----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|    | 平成11   | 平成12   | 平成13   | 平成14   | 平成15   | 平成11   | 平成12   | 平成13   | 平成14   | 平成15   |
| 本館 | 23,596 | 27,160 | 27,690 | 28,311 | 27,918 | 42,580 | 43,879 | 44,127 | 45,205 | 44,619 |
| 分館 | 7,151  | 6,801  | 6,229  | 6,321  | 6,981  | 13,552 | 12,936 | 11,670 | 11,454 | 11,971 |
| 分室 | 7,280  | 6,568  | 6,485  | 7,236  | 6,959  | 11,111 | 10,205 | 10,239 | 11,290 | 10,895 |

### 3. 学外者利用状況



|    | 平成11 |      | 平成12  |       | 平成13  |       | 平成14  |       | 平成15  |       |
|----|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|    | 利用者数 | 貸出冊数 | 利用者数  | 貸出冊数  | 利用者数  | 貸出冊数  | 利用者数  | 貸出冊数  | 利用者数  | 貸出冊数  |
| 本館 | 913  | 791  | 5,414 | 1,310 | 6,972 | 1,720 | 6,397 | 1,966 | 5,964 | 1,720 |
| 分館 | 241  | —    | 473   | 68    | 283   | 114   | 372   | 99    | 318   | 146   |
| 分室 | —    | —    | —     | 9     | —     | 41    | —     | 100   | —     | 171   |

### 4-1. 文献複写(相互利用(受付・依頼))



|    | 受付件数  |       |       |       |       | 依頼件数  |       |       |       |       |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|    | 平成11  | 平成12  | 平成13  | 平成14  | 平成15  | 平成11  | 平成12  | 平成13  | 平成14  | 平成15  |
| 本館 | 5,778 | 6,861 | 8,096 | 7,968 | 7,355 | 4,088 | 3,798 | 5,042 | 4,849 | 5,136 |
| 分館 | 7,080 | 5,750 | 7,841 | 7,257 | 6,249 | 2,532 | 2,936 | 2,298 | 2,833 | 1,822 |

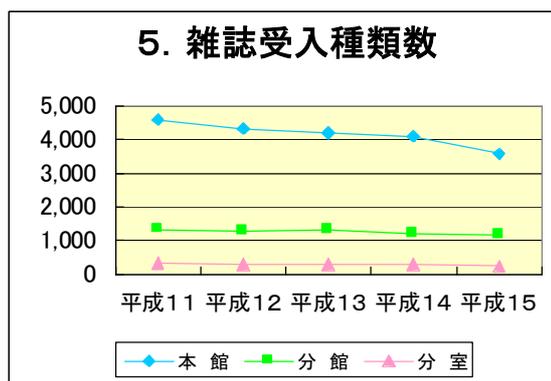
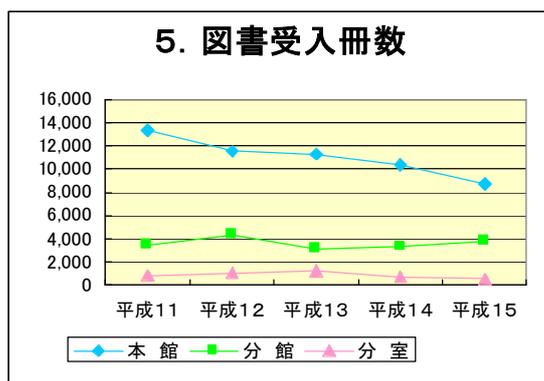
\* 保健学科分室の文献複写件数は分館に含まれる。

#### 4-2. 図書相互貸借(大学間(貸出・借用))

|    | 図書貸出(他大学) |      |      |      |      | 図書借用(他大学) |      |      |      |      |
|----|-----------|------|------|------|------|-----------|------|------|------|------|
|    | 平成11      | 平成12 | 平成13 | 平成14 | 平成15 | 平成11      | 平成12 | 平成13 | 平成14 | 平成15 |
| 本館 | 341       | 467  | 533  | 661  | 635  | 437       | 574  | 444  | 468  | 500  |
| 分館 | 23        | 25   | 38   | 35   | 45   | 20        | 18   | 16   | 33   | 21   |

\* 保健学科分室の相互貸借件数は分館に含まれる。

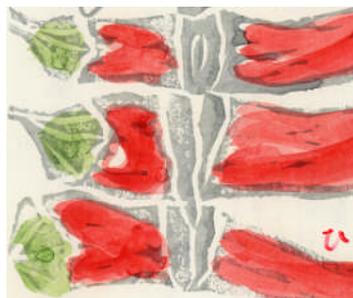
#### 5. 図書受入冊数及び雑誌受入種類数



|    | 図書受入冊数 |        |        |        |       | 雑誌受入種類数 |       |       |       |       |
|----|--------|--------|--------|--------|-------|---------|-------|-------|-------|-------|
|    | 平成11   | 平成12   | 平成13   | 平成14   | 平成15  | 平成11    | 平成12  | 平成13  | 平成14  | 平成15  |
| 本館 | 13,340 | 11,510 | 11,275 | 10,376 | 8,718 | 4,595   | 4,329 | 4,208 | 4,103 | 3,580 |
| 分館 | 3,438  | 4,363  | 3,133  | 3,276  | 3,770 | 1,337   | 1,285 | 1,308 | 1,199 | 1,180 |
| 分室 | 843    | 1,053  | 1,228  | 732    | 521   | 331     | 290   | 294   | 281   | 234   |

#### 6. 総蔵書数及び総雑誌タイトル数

|    | 総蔵書数    |         |         |         |         | 総雑誌タイトル数 |        |        |        |        |
|----|---------|---------|---------|---------|---------|----------|--------|--------|--------|--------|
|    | 平成11    | 平成12    | 平成13    | 平成14    | 平成15    | 平成11     | 平成12   | 平成13   | 平成14   | 平成15   |
| 本館 | 672,531 | 679,894 | 691,098 | 699,701 | 607,671 | 13,946   | 14,795 | 15,720 | 16,341 | 16,942 |
| 分館 | 159,402 | 163,765 | 166,898 | 170,174 | 128,041 | 4,870    | 5,033  | 5,186  | 5,374  | 5,522  |
| 分室 | 39,731  | 41,284  | 42,064  | 42,790  | 42,537  | 501      | 519    | 574    | 598    | 616    |



# 図書館日誌

(平成14年3月～平成17年1月)

- 14年 3月20日(水) 平成13年度第4回附属図書館協議会  
4月11日(木) 第14年度国立大学図書館東北地区協議会総会(秋田大学)  
4月26日(金) 平成14年度第1回附属図書館協議会  
5月21日(火) 平成14年度国立大学附属図書館事務部課長会議(東京)  
6月24日(月) 第5回医学部分館特別展示会「よりよい医療を求めて」開催  
～7月19日(金)  
6月26-27(水・木) 第49回国立大学図書館協議会総会(鳥取大学)  
7月23日(火) 平成14年度第2回附属図書館協議会  
7月26日(金) 第8回青森県高等教育機関図書館協議会総会(八戸サテライト教室)  
9月 6日(金) 平成14年度第3回附属図書館協議会  
9月19-20(水・木) 第57回東北地区大学図書館協議会総会  
10月21日(月) 第6回医学部分館特別展示会「ジェンナー展」開催  
～11月29日(金)  
11月1-3(金-日) 弘前大学総合文化祭・図書館ツアー実施  
11月27日(水) 平成14年度第4回附属図書館協議会  
12月 5日(木) 平成14年度国立大学図書館東北地区協議会事務連絡会議  
12月13日(金) 平成14年度第5回附属図書館協議会(紙上)
- 15年 1月23日(木) 国立大学附属図書館事務部長会議(岐阜)  
2月 6日(木) 平成14年度第6回附属図書館協議会  
3月25日(火) 附属図書館報(豊泉) No.24 発行  
4月23日(水) 平成15年度第1回附属図書館協議会  
5月28日(水) 平成15年度国立大学附属図書館事務部課長会議  
6月25-26(水・木) 国立大学図書館協議会第50回記念総会  
7月 9日(水) 平成15年度第2回附属図書館協議会  
7月24日(木) 第9回青森県高等教育機関図書館協議会総会(青森市)  
7月30日(水) 平成14年度東北地区大学図書館協議会合同研修会(弘前大学)  
9月18-19(木・金) 第58回東北地区大学図書館協議会総会(東北福祉大学)  
11月1-3(月-水) 弘前大学総合文化祭・図書館ツアー実施  
11月27日(木) 平成15年度国立大学図書館東北地区協議会事務連絡会議  
12月18日(木) 平成15年度第3回附属図書館協議会
- 16年 1月22日(木) 平成15年度国立大学附属図書館事務部長会議(富山市)  
3月 3日(水) 平成15年度第4回附属図書館協議会  
3月15日(月) 平成15年度附属図書館職員研修会  
4月22日(木) 平成16年度国立大学図書館東北地区協議会総会(宮城教育大学)  
5月13日(木) 平成16年度第1回附属図書館運営委員会  
7月 1日(木) 第51回国立大学図書館協会総会(大阪大学)  
7月15日(木) 第10回青森県高等教育機関図書館協議会総会(弘前大学)

- 9月 3日(金) 平成16年度第2回附属図書館運営委員会
- 9月16日(木) 第59回東北地区協議会総会(山形)
- 10月29-31(金-日) 弘前大学総合文化祭・図書館ツアー実施
- 10月30日(土) 附属図書館第1回学術講演会「太宰治の青春」開催
- 11月18日(木) 青森県高等教育機関図書館協議会研修会・講演会(県保健大)
- 11月26日(金) 平成16年度国立大学附属図書館東北地区協議会事務連絡会議(岩大)

## ガイダンスのお知らせ

図書館の利用方法を総合的に紹介するため、次のガイダンスを行います。

### 1. 図書館ツアー(新入生対象)

- 期 間** 4月11日(月曜日)～15日  
(金曜日)の5日間
- 時 間** 16:00～17:00
- 集合場所** 附属図書館2階「新聞コーナー」  
前(事前申し込みは不要です。5分  
前までに集合してください)
- 内 容** ・図書館の利用方法と館内ツアー  
(書庫内見学を含む。)  
・レファレンス・サービス(文献複写,  
相互利用など)の利用案内  
・OPAC(オンライン全学総合目  
録)の利用方法

- ・「雑誌記事索引」などの各種デー  
タベースの利用方法
- ・Webcat(全国総合目録デー  
タベース)の利用方法

### 2. 図書館ガイダンス・実践編

(学部学生3・4年, 大学院生対象)

- 期 間** 5月, 10月のそれぞれ5日間  
(予定)
- 時 間** 未定
- 集合場所** 附属図書館2階「参考図書コー  
ナー」前
- 内 容** ・卒業研究などのための図書館利  
用方法  
・図書館資料(書庫など)の利用  
方法  
・レファレンス・サービス(文献  
複写, 相互利用など)の利用案内

### 3. ゼミ単位・図書館ツアー

- 日 時** 常時受付
- 内 容** 新入生対象のツアーに比べ, OP  
ACによる資料検索や資料の請求  
貸出しなどに重点を置いた, 具体  
的な内容を予定。

### 4. 総合文化祭図書館ツアー

(一般市民対象)

- 期 間** 総合文化祭開催期間中
- 時 間** 未定
- 集合場所** 附属図書館2階「新聞コーナー」  
前  
(事前申し込みは不要です。5分前  
までに集合してください。)
- 内 容** ・例年秋に開催される総合文化祭に  
おいて学外の方を対象とした図書  
館ツアーを実施しています。  
・利用登録を申請した方には「図書  
館利用証」を発行しています。  
(情報サービスグループ)

## 編集後記

電子版豊泉の第一号の発刊である。学生にとって楽しい読み物となり、また必要な情報にもなるような新たな「豊泉」への助走への一歩である。次回からは、より豊穰な「豊泉」へと結び付けたい。1年の空白の後、前号から形はいわば緩やかに連結したけれども、公にされた内容は、特に土持先生のそれは革新的である。「日本における大学教育革新の手法」の提言である。手法が実現されるなら、図書館は呼応するのみである。(A)

弘前大学附属図書館報 「豊泉」 第25号 編集:弘前大学附属図書館広報委員会  
発行日:2005年3月25日 発行:弘前大学附属図書館 〒036-8560 青森県弘前市文京町1 0172(39)3162

標題の「豊泉」は、明治9年の「仏国学制」付録上巻中の「人智ヲ広ムルノ豊泉アリ」の文に基づき、松原邦明名誉教授命名 題字:藤原疎水編「書道六體大字展」(三省堂)より

